

No.	実施回	意見内容	対応の考え方
1	1	令和5年度に施設利用者向けアンケートを予定されているが、スポーツ実施率の向上のためには、施設を利用していない方を対象にした一般区民対象のアンケートも必要ではないか。	予算も含めアンケート設計について検討する。
2	1	マインドスポーツ・eスポーツも含め、スポーツの捉え方・範囲によってスポーツ実施率は影響を受けるのではないか。	eスポーツも含めてスポーツの定義・範囲を検討する。
3	1	スポーツ施設のバリアフリー化について、車いす競技者のスポーツ実施環境の調査・把握が必要でないか。	障害者のスポーツ実施環境について調査・把握を行う。
4	1	障害者に対するスポーツ振興施策が進んでおり、今後の展開が期待されるのではないか。	推進の要因を分析して施策に反映する。
5	1	総合型地域スポーツ・文化クラブの会員数は横ばいであり、eスポーツなどの新たな活動内容も含め今後検討していく必要がある。	eスポーツへの関心も含めて調査・検討する。
6	1	スポーツ実施率について、国・都の定義の違いの確認した上で水準を合わせる必要があるのではないか。また、「みる」「ささえる」に関連した目標値を設定できないか。	実施率の定義の確認を行う。また、成果指標の設定について、実施率以外にも検討する。
7	1	スポーツ観戦はQOLに貢献するものであり、大学・学校スポーツも含めて観戦機会の多様化を検討できないか。	スポーツ施設以外での観戦機会提供についても反映する。
8	1	プロチーム・選手の活躍も目立っており、観戦機会提供に寄与するのではないか。また、積極的な告知や支援などを検討してはいかがか。	連携について検討していく。
9	1	パラスポーツは健常者も障害者も共に取り組めるユニバーサルスポーツであることを意識してはどうか。	健常者もともにできるスポーツとして発信・施策検討していく。
10	1	家族でのスポーツ参加促進が、障害の有無を問わず、子どものスポーツ実施につながるのではないか。	家族・保護者をターゲットとした施策を検討する。
11	1	キャンプや温浴などの民間リクリエーション施設の機能もスポーツ施設に取り込んでどうか。	スポーツ施設の多機能化について検討する。

No.	実施回	意見内容	対応の考え方
12	1	スポーツ実施率の低い若年単身世帯を対象とした施策として、深夜利用可能な温浴・トレーニング施設を整備してはどうか。	スポーツ施設の多機能化について検討する。
13	1	「多様な主体におけるスポーツの機会創出」は、特にDX・デジタル活用の視点で推進できるのではないかと。それにより、スポーツに対する意欲はあるものの実施できていない層など、多様なニーズを受け止めていく必要があるのではないかと。	DX・デジタル活用分野での施策・連携を検討する。
14	1	スポーツ実施には教育が重要である。子どもの頃から良い教育を受けていれば、自ずとスポーツを実施するようになるのではないかと。	子どもたちのスポーツへのかかわりの多様化について施策への反映を検討する。
15	1	学校体育ではオリパラの影響もあり、ダンス、アーバンスポーツも含めて運動・スポーツに親しむ子どもが増えており、レガシー教育、ユニバーサルスポーツの観点も重要ではないかと。また、ジェンダー平等など生涯スポーツの観点も重要ではないかと。	子どもたちのスポーツへのかかわりの多様化について施策への反映を検討する。
16	1	eスポーツに相当する活動は多くの子どもに浸透している。どこからがスポーツなのかは難しいが、デジタル技術を活用した取組みは有効ではないかと。	子どもたちのスポーツへのかかわりの多様化について施策への反映を検討する。
17	1	全国で活躍する部活動種目に加えて、「ゆる部活」「軽スポーツ部」も広まっている。障害のある子どもの参加も含めて施策に反映できるのではないかと。	子どもたちのスポーツへのかかわりの多様化について施策への反映を検討する。
18	1	女性、子育て世帯・勤労世帯などのターゲットを絞ったスポーツ実施率向上のため、特に情報提供に課題があるのではないかと。	家族・保護者をターゲットとした施策を検討する。
19	1	昨年度の子どもの体力調査によると、パソコン・スマホ画面を一定時間見ている子どものほうが体力は高く、ライフスタイルは変化しているのではないかと。	子どもたちのスポーツへのかかわりの多様化について施策への反映を検討する。
20	1	学校教育だけでなく、家庭・保護者世代にスポーツの価値を訴求することも効果的ではないかと。	家族・保護者をターゲットとした施策を検討する。

No.	実施回	意見内容	対応の考え方
21		現行計画におけるスポーツの定義には「健康の維持増進」という表現があるが、「心身の健康」等の表現により、心の健康にも言及してはどうか。	心身の健康への言及を検討する。
22		スポーツの定義はシンプルなものとして、備考のような形でスポーツの捉え方を併記し、マインドスポーツやeスポーツなどにも言及しておいた方が良いのではないか。	スポーツの捉え方や、マインドスポーツ・eスポーツの記載方法を検討する。
23		スポーツの定義について、心身の健康につなげるという観点から、「意識的に行う～」よりも「意図的に行う～」という表現の方が適切ではないか。	ご指摘を踏まえて表現方法を検討する。
24		スポーツの捉え方として、「幼児の運動」という表現が出てくるが、「幼児の遊び・運動」という表現の方が適切ではないか。	ご指摘を踏まえて表現方法を検討する。
25		「する」「みる」「ささえる」は重なり合うものであり、分断して考えられると違和感がある。「色々な方法で関わる人を増やす」と考える必要があるのではないか。	「する」「みる」「ささえる」それぞれの要素同士の間わりを捉え、色々な形でスポーツに関わる人を増やせる施策を検討する。
26		スポーツの捉え方として、「多様性に応じたスポーツ」や「ユニバーサルスポーツ」に言及した方が良いのではないか。	ご指摘を踏まえて記載方法を検討する。
27		スポーツの捉え方として、「鬼ごっこなどの遊びを含む」などと付記しても良いのではないか。	スポーツの捉え方として「鬼ごっこなどの遊び」について付記を検討する。
28		基本理念はありたい姿を示すもので最も重要である。区民向けワークショップを開催したり公募したりすることで、色々な方の意見を伺って作られるべきではないか。	区民ワークショップを開催し、意見を集約する。
29		基本理念のいつでも・どこでも・だれでも・いつまでも（IDDI）は、基本理念を下支えする普遍性の高い概念であり、変更する必要はないのではないか。	いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも（IDDI）の概念は今後も継続する方向で検討する。

No.	実施回	意見内容	対応の考え方
30	2	「世田谷区はスポーツが盛んだと思う区民の割合」は評価が困難である。イベントや活動に自身がどれくらい参加したかという視点で指標を設定する必要があるのではないか。	アウトカム指標として適切な指標を検討する。
31	2	基本目標に基づいて指標が設定されるべきであり、最終的にアウトカム指標で評価することは良いが、そこに至るまでのプロセスを把握するため、アウトプット指標も抑えなければならないのではないか。	取組み・事業についてはアウトプット指標等で進捗管理する。
32	2	基本目標は、健康寿命の延伸、医療費の削減などにも踏み込むことができるのではないか。スポーツは、区民の健康、人とのつながり、まちの活性化に貢献する手段であると区民に呼び掛けられると良いのではないか。	目標とする場合には成果指標と紐づけて進捗管理する必要があるため、測定の観点からも検討する。また、区民へ呼びかけられるような内容を検討する。
33	2	基本理念は、IDDIの前に、「豊かな心身を育む」等を入れた方が良いのではないか。	ご指摘を踏まえて検討する。
34	2	基本目標の「共生社会の実現」においては、世代の違いや人種の違いも含めて記載いただいた方が良いのではないか。	ご指摘を踏まえて検討する。
35	2	スポーツ施設の整備において、スポーツをする人を増やすという点では、多目的で使える場所を増やすことが重要ではないか。	スポーツ施設の整備のあり方について検討する。
36	2	スポーツ施設の整備においては、DXの推進やPFIの活用に言及すべきではないか。	ご指摘を踏まえて検討する。
37	2	スポーツ施設の整備について、何を目的として行うかにより施策が違うので、目的を明確にすべきではないか。	ご指摘を踏まえて検討する。
38	2	スポーツ施設の整備においては、まちづくりや、地域活性化のためのイベント企画などといった観点の施設の利用にも言及できないか。	ご指摘を踏まえて検討する。